



①:依頼内容と目的

- ・必要に応じた情報をAIの応答を通じて取り出す。
(故障原因や修理方法、商品特徴等)
- ・現状は、データが不定型に散らばっており、正しい情報の取得には時間が必要になる。
- ・情報整理と引き出しをAIで半自動的に行う。

②:使用環境・実装方法

使用環境

- ・ Python (主要な開発環境)
- ・ Azure (クラウドデータ、AI)
- ・ ChatGPT (開発中のコード記述を担当)

実装方法(ロードマップ)

- ①: 戸倉商事様から頂いたExcelデータ (機器の保守担当者が機器や症状や対処を記録した表データ) を人力で、AIが処理しやすい様にタグ付けする。
- ②: Azureのサービス上にAI検索サービスを使える環境を構築する。
- ③: Azureのインデックス上にタグ付けしたデータをアップロードし、AI検索が行える環境にする。
- ④: AI検索やデータのアップロードを行えるPythonプログラムを作成する。
- ⑤: 実行ファイルにし戸倉商事様に渡す。

④:考察・反省点

- ・ Azureは従量課金制であり、学校のAzureアカウントで出来るタスクの量には限度があるため、企業が自身のAzureアカウントを使ってもよい形にできたのは良いと感じた。
- ・ UIがチープであった。(最も標準的なPythonライブラリのUIを用いたため)
→よりUIに凝ったライブラリを使ってもよかった。
- ・ EXEファイルという形式で作ったものが思ったより使いずらく、起動に時間が結構かかるうえに自作なためウイルスバスターに起動を止められる。
→Web上で動作するべきだったかもしれない。

⑤:総括

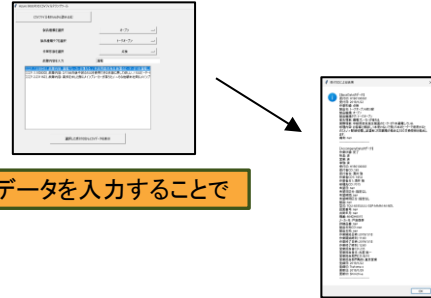
個人製作かつ短い開発期間、さらに開発初心者としては、かなり良い具合に完成品を作ることが出来た。改善の余地は見えているので、今後開発を行うことがあれば参考にできると考えている。
また、データとテーマの示唆を提供くださった戸倉商事株式会社様、滋賀県中小企業団体中央会様に感謝申し上げます。

③:内的データ含む結果

作成し、配布したデータは以下の3つ

①:検索クエリ

- ・ メインの検索エンジン。条件を指定し故障概要ワードを入力することで、条件に一致した故障原因を検索することが出来る。



データを入力することで

データの羅列がまとめられて表示される

②:新規アップロード

新たなExcelデータををAIに読み込ませたい場合に使う。データにはAIによって自動でタグが付与される。クラウド上ではデータの原本は歪毛ごとに分けて管理される。

③:セットアップ

企業様が新規Azureアカウントでデータを作成したい場合に使う。データを処理し、AIを使える状態にする。